

想

「カラオケの効用」

町長 三浦正隆

最近、たまたまテレビのチャンネルを動かしていたら、コンピューターがカラオケの採点をして優劣を決める番組があった。このたまたまが2度、3度とあったので単純に偶然ではなく、大げさに言えば何か因縁めいたものを感じた。歌番組でありがちな審査員の主観というものが一切入り込まない分（裏で操作していなければの話だが）、かえって見る方は意外性を期待して楽しむことが出来る。

実際、圧倒的に歌唱力があって上手だと思っていた台湾の少年が敗れるというハプニングもあった。最近はまだこの種の機能を持ったカラオケを置くお店も多くなったし、自治会主催のカラオケ大会などでもこの種のカラオケが使われていると聞く。

私事で大変恐縮ですが、私も決してカラオケは嫌いではない。むしろカラオケ好きと言っても良い。8トラックから始まったカラオケもいまでは通信カラオケが主流ということで、新曲がまたたく間に入ってくる。今はやりの曲を次々に繰り返す若い人達を多少はうらやましくも思うが、ここ30年間ほとんどレパートリーに変化がない当方としてはもはや気にする年でもない。

そこは年の功というか、昔流行った懐かしのメロディーのオンパレードで押し通す。グループサウンズからJポップ、今の時期は新沼謙治の「津軽恋女」なんかもいい。

サビの「降りつもる雪 雪 雪 また雪よ 津軽には七つの雪が降るとか こな雪 つぶ雪 わた雪 ざらめ雪 みず雪 かた雪 春待つ氷雪」は、本当にいい歌詞&メロディだと思う。

ところで、ゆめろんの隣に「さざなみ苑」という町の健康施設があるのをご存じだろうか。老人クラブの皆さんが定期的に利用されて、温泉に入りながら持参のお弁当を広げて楽しんでいらっしやる。大広間には通信カラオケもあり、どおりで皆さん新曲をよくご存じの筈である。

お腹から声を出して歌うことが健康に良いことはよく知られている。そしてもう一つの効用もあるように思う。それは、お化粧をして外出する機会が増えることが、人の目を意識して結果的に精神的にも肉体的にも若々しくなるのではないか。

健康寿命を長く保つように町ではいろいろ施策を行っている。健康体操や健康マージャン講座をやったり、クアオルト（健康保養地）事業を調査研究したり。カラオケを活用して一歩進めた事業もあっていい。

マイクを握りしめ熱唱する元気な高齢者の皆さんに接していると、カクテル光線やスポットライトの中で思う存分歌ってもらいたい何かそんな“舞台設定”はできないものかとついつい考えてしまいます。

皆さん、今月もお元気で過ごして下さい。



津波への警戒意識を高めましょう！

日ごろの備え

- 懐中電灯、携帯ラジオ、水筒、救急医療用品、貴重品、非常食品等の非常持出品を準備しておきましょう。
- 非常持出品は、直ぐに持ち出せる場所に準備しておきましょう。
- 安全な避難場所・避難ルートを確認しておきましょう。
- 災害用伝言板サービスの活用など、家族間の連絡手段を確認しておきましょう。
- 家屋、家財道具等の転倒・落下防止等の措置を講じておきましょう。

津波への対応

- 沿岸で、地震を感じたら津波に警戒しましょう！
- 防災行政無線、テレビ、ラジオ等で正しい情報を入手しましょう！
- 地域ぐるみで協力し、声を掛け合い避難しましょう！
- 逃げるときは川沿いを避けましょう！
- 海水浴や磯釣りはすぐやめて高いところへ避難しましょう！
- 津波は繰り返します。注意報・警報解除まで注意しましょう！
- その後の余震に注意しましょう！